

# 2016年度第1四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2016年5月13日

# I . EAJ事業内容のご説明

# EAJとは？

日本エマージェンシーアシスタンス(EAJ)は、お客様が海外へ渡航されたり海外で生活される折に、何かでお困りになったり、何かしらの支援が必要となった際に、それが世界中の「いつ、どこであっても」、アシスタンスというサービスの提供を通じて事態を解決へと導いてゆく会社です。

例えば、お客様が海外渡航中に病気や怪我に遭われた場合、たとえご本人が言語、医療制度さらには社会環境面等でのギャップで対応できなくても、EAJが適格な医療機関の紹介、診療予約、通訳提供といった受診支援を行うことにより、お客様は、信頼できる水準の医療サービスを安心して受けることができます。

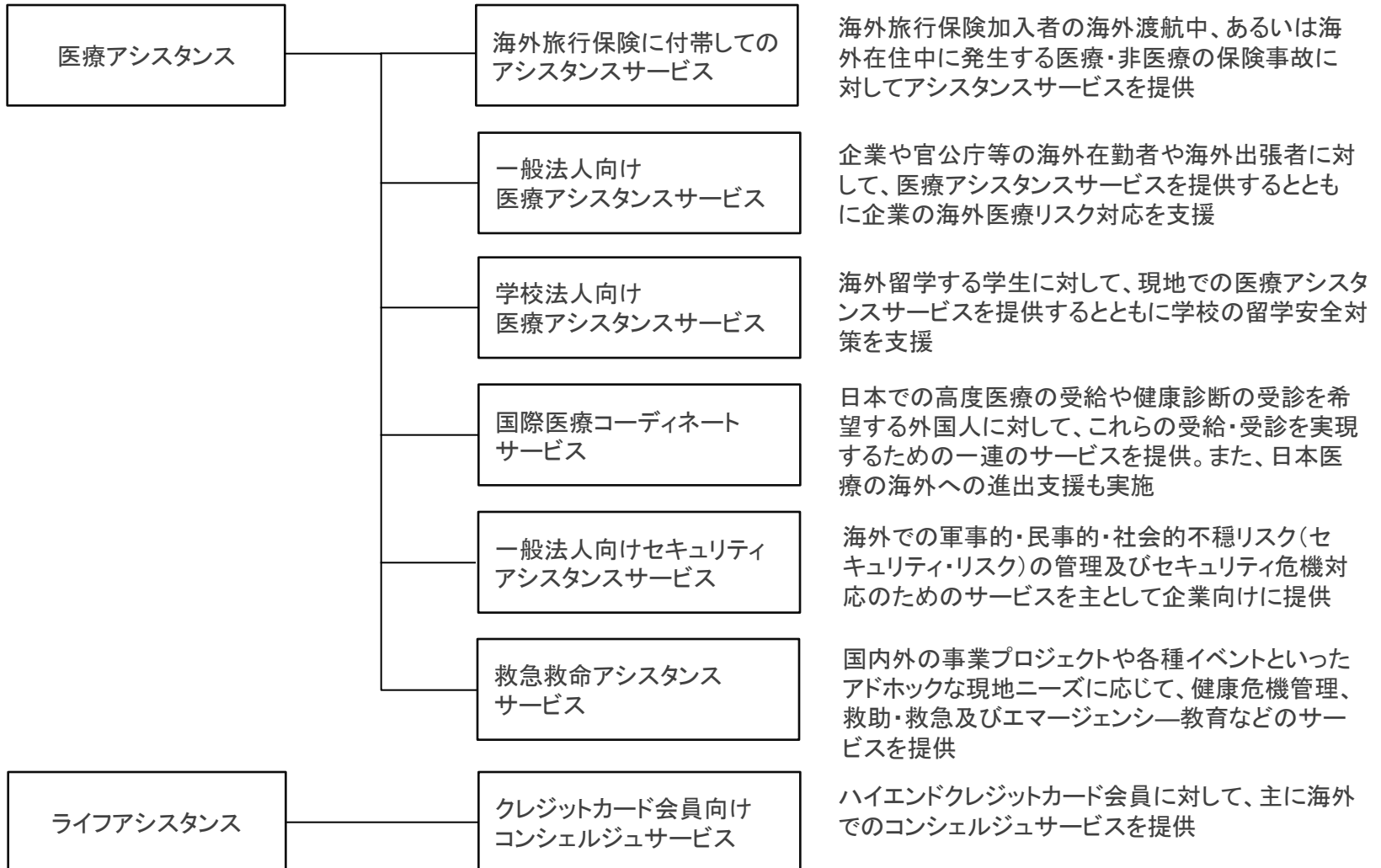
また、海外のレストランやエンターテインメントの予約、あるいはお買い物支援などのコンシェルジュ・サービス(ライフアシスタンスサービス)の提供により、海外での時間を「より楽しく」、「より快適に」お過ごし頂くためのお手伝いもしております。

EAJは、このような医療を始めとする緊急対応アシスタンスやライフアシスタンスの提供を通じて「アシスタンスでお客様の世界を広げる」ことをミッションに、24時間365日休むことなく活動しています。

# 当社事業

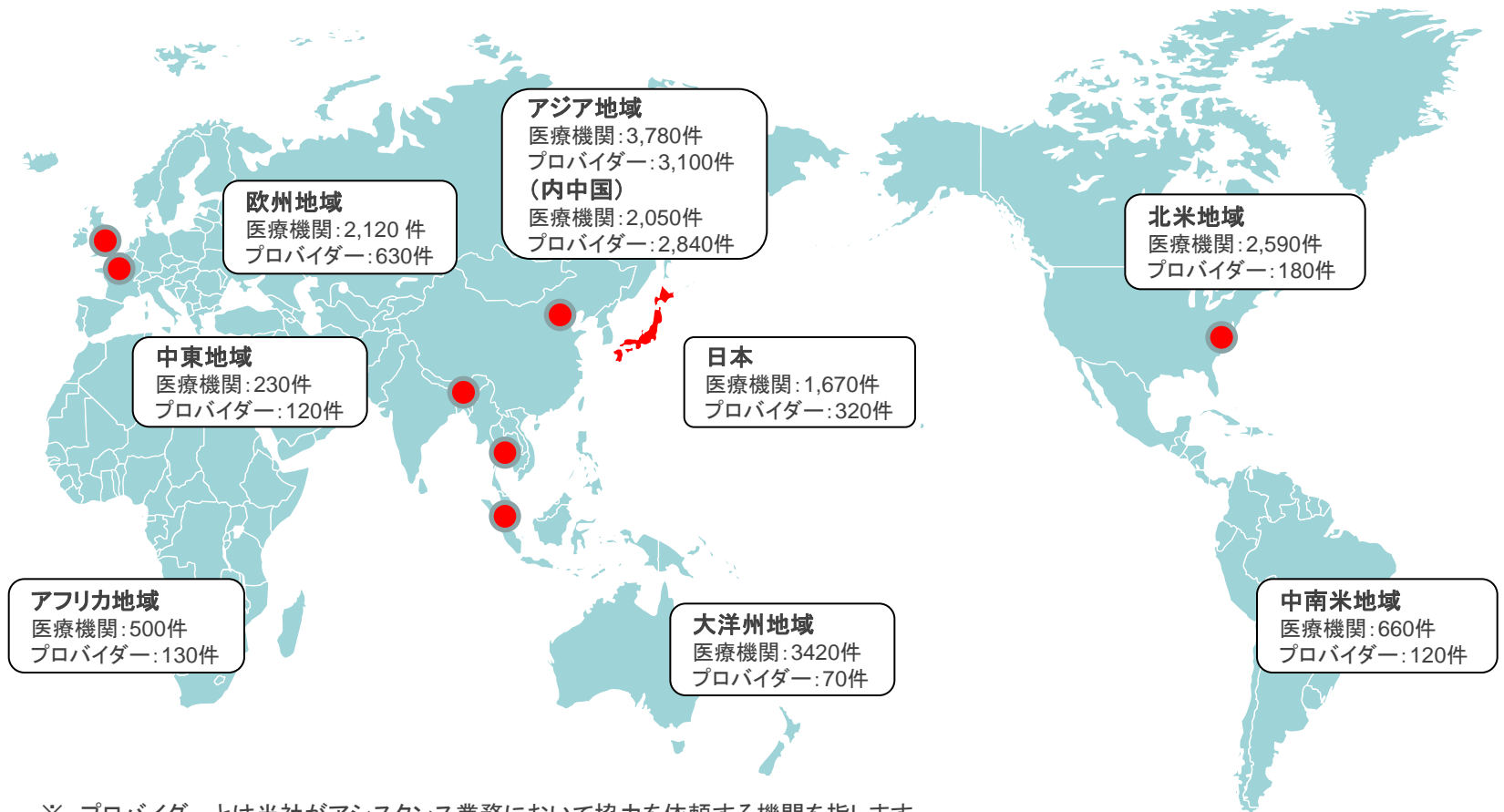
## 事業

## 展開する主なサービス概要



## EAJのネットワーク網

- 7ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス、バングラデシュ）
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は290名
- 世界各国で提携関係にある14,970件の医療機関と4,670件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※ プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

## EAJ ビジネス4つの強み

### ① ジャパンスタンダードのサービス

- ・ジャパンスタンダードとは、品質には絶対に妥協しないというコミットメントと日本固有の思いやりの心が融合して作り出される高度のサービスであるとEAJは考えます。
- ・日本の心をもってお客様の期待を良く理解し、異文化への造詣も深いコーディネータが経験を積んだ専門家の適切な支援を受けてサービス提供します。
- ・「医療渡航支援企業(※1)」として訪日外国人にも「思いやりの心」に根ざした日本標準のサービスを提供するインバウンド・アシスタンスのリーディングカンパニーです。

### ② プロフェッショナルクオリティ

- ・厳しいトレーニングと実務経験に裏打ちされたスキル、そして高い使命感を有するコーディネータが世界各地で24時間365日スタンバイのうえ、お客様の期待を超えるサービスの提供に力を尽くします。医療アシスタンスでは、国際的な医療や保険に関する幅広い知識を持った多言語対応のコーディネータが対応します。ライフアシスタンスでは、国際的なライフ・スタイルのニーズに関する広い知見と高いコンシェルジュマインドを備えた多言語対応のコーディネータが対応します。

※1 「医療渡航支援企業認証制度」は、日本政府の成長戦略の一環として、来日して治療を受けようとする外国人が安心して医療サービスに関する相談や受診の支援が受けられるよう、一定の基準を満たした質の高い支援サービスを提供できる企業に日本政府が”お墨付き”を与える制度です。

## EAJ ビジネス4つの強み

### ③ワンストップでアシスタンスを提供

- ・緊急第一報の受付から、医療機関での受診、診療経過のモニター、さらには帰国搬送まで、必要なアシスタンスを連続した同一のプロセスで提供することにより高度に安定した品質のサービスを提供することができます。
- ・セキュリティアシスタンスと医療アシスタンスをセットで提供することができ、これにより医療とセキュリティという企業にとっての二大ビジネスリスクへの統合的ソリューションを可能にします。

### ④グローバルネットワーク

- ・世界中の医療機関及び役務提供機関との提携を通じて構築された広範で信頼性の高いサービスネットワークが「世界中のいつ、どこであっても」提供可能なアシスタンスを実現しています。
- ・軍事・諜報・公安といった領域での高度なプロフェッショナルが必要とされるセキュリティ関連サービスも、国際的な人脈に基づくセキュリティ専門会社(※2)との業務提携を通じて提供されています。

※2 当社はHill & Associates社、ユナイテッド・ヘルスケア・グローバル社、Spartent社といった国際的なセキュリティリスクマネジメント会社と提携しております。

## Ⅱ. 2016年度第1四半期連結累計期間の決算報告



## 第1四半期の決算業績サマリー

- 売上高 742百万円(前年同期: 753百万円)  
営業利益 58百万円(前年同期: 48百万円)  
経常利益 45百万円(前年同期: 45百万円)  
当四半期純利益 28百万円(前年同期: 39百万円)
- 売上高は742百万円と順調に推移。
  - 医療アシスタンス事業の売上減(前年同期比1.9%減)は官公庁からの受注額の減少によるもので想定内。
    - ✓ 2016年第1Qの海外出国者数は回復の兆しが見られ、対前年同月比で増加し、当社のアシスタンスサービスに関する売上高(ケース売上)は前年を上回った。
    - ✓ 法人・大学・セキュリティ売上は好調であった。
    - ✓ 外国人患者受入事業は前年同月比で売上が増加した。
  - ライフアシスタンス事業の売上は前年同期比で1.8%増。
    - ✓ 事業は順調に推移し、売上も増収であった。
- 費用に関しては、アシスタンスオペレーションにおいて競争優位を得る「オペレーショナルエクセレンス」を実践しつつ、適正人員の配置、ITの活用によりコスト抑制に努め、営業利益は58百万円(前年同期比21.6%増)となった。
- 経常利益は45百万円、当四半期純利益は税務上の繰越欠損金が解消することにより税金費用が増加したことで、28百万円と減少した。

## 第1四半期および直近のトピックス

- **計画を上回る売上・利益を達成した。**

前年度のような大型搬送案件の発生等の特需が本年度はなかったものの、海外出国者数が増加するという当社にとって追い風の環境で、シェアの拡大に支えられて、医療アシスタンス売上は堅調に推移した。

医療渡航支援企業に認証されたことで認知度と信頼が増したこと、訪日外客数の大幅な増加があり外国人患者受入事業も好調であった。

一方で、官公庁事業の受注額は減少した。

また、アシスタンスオペレーションで競争優位を得る「オペレーショナルエクセレンス」を実践しつつ、コスト抑制に努めた。

上記により、第1四半期の業績は売上高、利益ともに計画を上回った。

- **監査等委員会設置会社に移行した。**

3月25日の株主総会で監査等委員会設置会社に移行した。社外取締役2名が選任されたことで会社のガバナンスの強化が期待される。

- **「医療の国際展開」を積極的に推進。**

- 4月に深圳市寧遠科技股分有限公司と提携し、医療ポータルサイト「就医160」において中国患者を呼び込むための日本の医療機関の情報発信を行う。
- 平成28年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者に公募採択され引き続きUAEアブダビ首長国と我が国の医療分野における協力強化事業を推進する
- 国立大学法人大阪大学と(株)セルキューブと協力し、再生医療製品の普及に向けた国際間細胞輸送実験の成功に寄与した。

## セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、トータルの売上は減少したものの海外出国者数が増加し、アシスタンスサービスに関する売上（ケース売上）は前年同期比で増加し、営業利益は増加した。
- 医療アシスタンス事業における外国人患者受入に係る売上（インバウンド売上）も堅調に推移した。
- ライフアシスタンス事業は売上・利益ともに概ね堅調に推移した。

（単位：百万円）

	前年同期		第1四半期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	648	107	635	126
ライフアシスタンス事業	105	27	106	28
調整額※	-	△86	-	△96
セグメント合計	753	48	742	58

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

## 第1四半期連結累計業績

連結BSは当期純利益増加による営業CFの増加があり、またサービス提供増加に伴う立替金増加に備えて借入金を増やした。

(単位:百万円)

	2015末 (構成比)	第1Q実績 (構成比)
資産合計	2,048 (100%)	2,173 (100%)
流動資産	1,751 (86%)	1,887 (87%)
固定資産	296 (14%)	285 (13%)
負債合計	1,379 (67%)	1,500 (69%)
流動負債	1,255 (61%)	1,394 (64%)
固定負債	124 (6%)	106 (5%)
参考:借入金残高	864 (42%)	975 (44%)
純資産合計	668 (33%)	673 (30%)

### 資産

-営業キャッシュフローの増加による  
現金及び預金の増加

### 負債

-サービス提供増に伴う立替金増加  
のための借入金が増加

### 純資産

-当期純利益が増加  
-円高による為替換算調整勘定の減少

## Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

## 2016年全社重点事業目標の遂行実績

### 全社重点事業目標

### 進捗状況

オペレーショナルエクセレンスの追求

- ・コールモニタリングの徹底や人材交流による海外センターとの連携強化。
- ・併せて高機能電話システムにより全世界センターを1つのヴァーチャルな拠点として扱うオペレーションに取組み、サービス品質向上、効率化が進みだした。

リエンジニアリングの追求

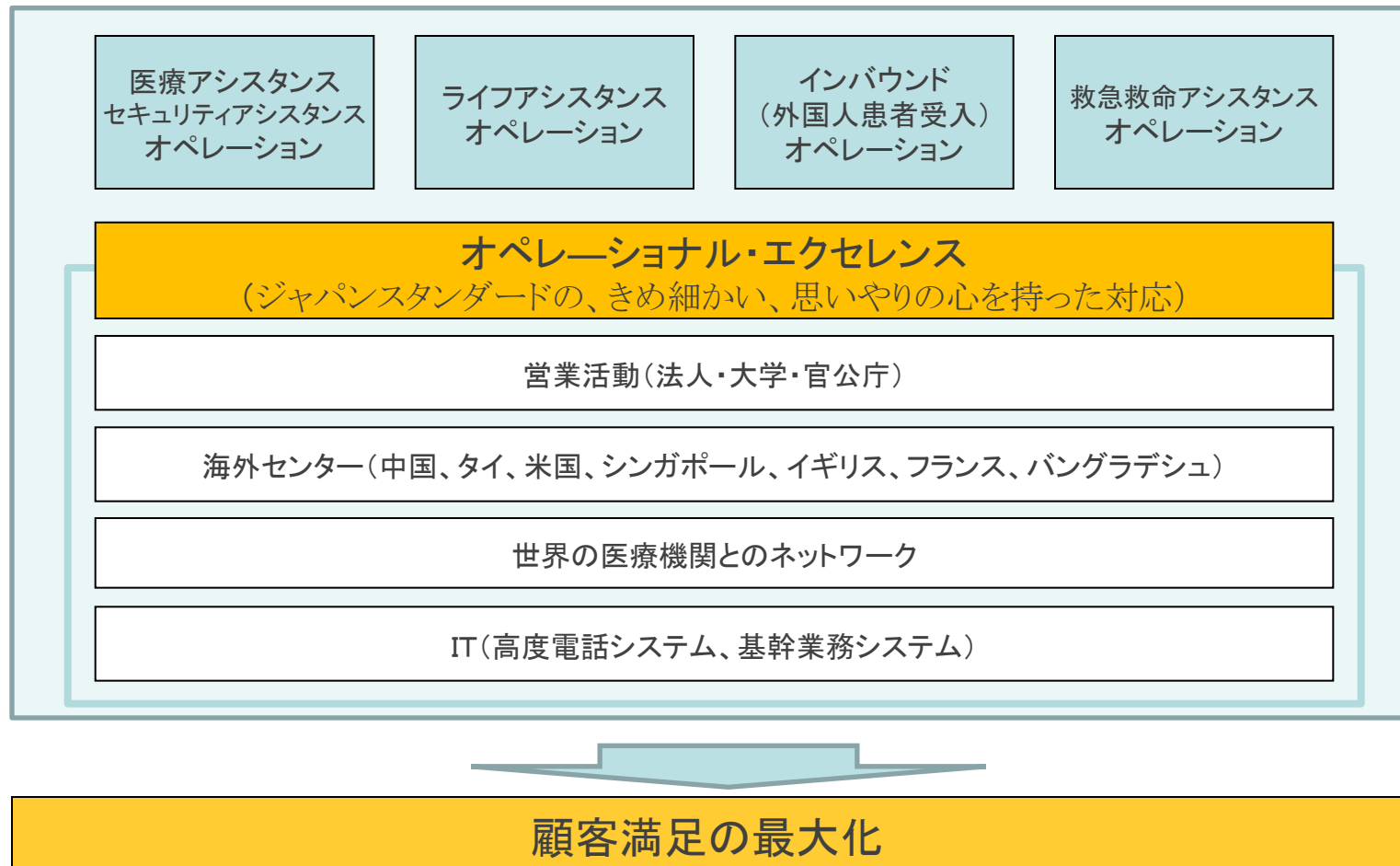
- ・全社的なリエンジニアリングの継続により、全業務について少数精鋭での処理体制作りを追求。
- ・各セグメント毎で収支管理を行ない、全社員がコストを意識して活動。

事業基盤の横展開による新規事業の獲得

- ・救急救命アシスタンスとして社内の救急救命士・看護師などの有資格者による新規事業を開始。
- ・バングラデシュ子会社のリソースを利用したコンサルティング業務の検討開始。

# オペレーショナル・エクセレンスの実現

EAJは常によりよいオペレーションの追求を全社で共有し、継続的なオペレーションの進化を可能にする仕組みを整え、顧客満足の最大化を目指します。



# 各種施策に関する主要NEWS RELEASE

## 平成28年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者の公募採択に関するお知らせ

### NEWS RELEASE



2016年4月1日

各位

会社名 日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 吉田 一正  
 (コード番号:6063 東京証券取引所JASDAQ)

### 平成28年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者の公募採択に関するお知らせ

日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社(略称:EAJ、本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正、URL:<http://emergency.co.jp/>)は、このたび、平成28年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金(産油・産ガス国開発支援等事業のうち産油・産ガス国産業協力等事業に係るもの)に係る補助事業者の公募に採択されましたのでお知らせします。

[http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public\\_offer\\_result/1603/160330h/](http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer_result/1603/160330h/)

当社が実施する事業の具体的内容は以下の通りです。

- アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国と我が国の医療分野における協力強化事業

当社は現地における日本の高度医療に関するセミナー運営や医療に関する国際交流を進めるなど、協力強化事業の管理全般を担い、日本の優れた医療サービスの継続的な訴求を行います。

当社は当該事業に平成23年度から公募採択されており、これまで両国の医療者交流、日本への患者受入、医療教育協力などの支援事業を実施してきました。

平成28年度も今までの経験を生かして本件業務に全力で取り組み、引き続きアブダビ首長国との協力強化に貢献してまいります。

当社は日本の医療サービスの認知度を高めることで、アウトバンド事業(医療技術・機器等の輸出)及びインバンド事業(外国人患者の受入サポート等)を増やし、アラブ首長国連邦の医療の高度化に貢献し、同国と日本との関係強化を図るとともに、あわせて日本の医療の国際展開を支援いたします。

■本件に関するお問合せ先  
 管理部 IR室  
 電話:03-3811-8121

## 再生医療製品の普及に向けた国際間細胞輸送実験に成功



2016年4月28日

日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社

株式会社セルキューブ

### 再生医療製品の普及に向けた国際間細胞輸送実験に成功

日本は既に高齢化社会を迎えており人口における老年人口の割合が2024年には30%以上に達するとのレポートも公表されています。そして高齢者の増加と併せて、心臓機能が低下した状態である心不全の罹患者が年々増加しており、2035年に264万人を超えピークを迎える見込みです<sup>\*1</sup>。心不全は、心臓機能の重症度に応じて治療法が選択されており、重症度の低い多くの患者さんは薬物療法で治療が行われます。しかし、重症度が高くなると人工心臓の埋め込みや心臓移植などの外科的手術が必要となり、患者さんの肉体的負担も増大します。特に心臓移植ではドナー不足の問題や、術後管理の難しさもありすべての患者さんへ十分な治療が提供されてはいない状況です。

国立大学法人大阪大学は国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構との共同研究で、心不全患者自身の細胞組織由来の心筋機能を補完する再生医療製品である骨格筋芽細胞シートを開発しました。世界に先駆けて日本で開発された、この再生医療製品は海外でも高く評価されていますが、海外での臨床応用にはまだ至っていません。

今回、日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社(以下EAJ)および株式会社セルキューブ(以下セルキューブ)は、骨格筋芽細胞シートが海外の患者さんに適用される際に重要になる海外～日本間の国際間細胞輸送をカタール国と日本間でラットの筋組織を使用して実施しました。その後、日本国内でラット筋組織内における細胞生存確認試験を経て、航空機での長時間移動という過酷な環境下においても組織内の筋芽細胞に重大な影響を与えないことが確認されました。

本実験結果について、骨格筋芽細胞シートを開発した大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科 澤芳樹教授は、「現在重度の心不全に罹っている世界中の患者さんに、新たな選択肢を提供できる可能性に繋がる重要な結果である」とし、今後の国際間輸送を伴う臨床試験の実施についても期待感を示されました。

EAJ およびセルキューブは、今後も骨格筋芽細胞シートの海外への普及を目指し、海外での当技術の紹介と共に各種試験実施をサポートしてまいります。

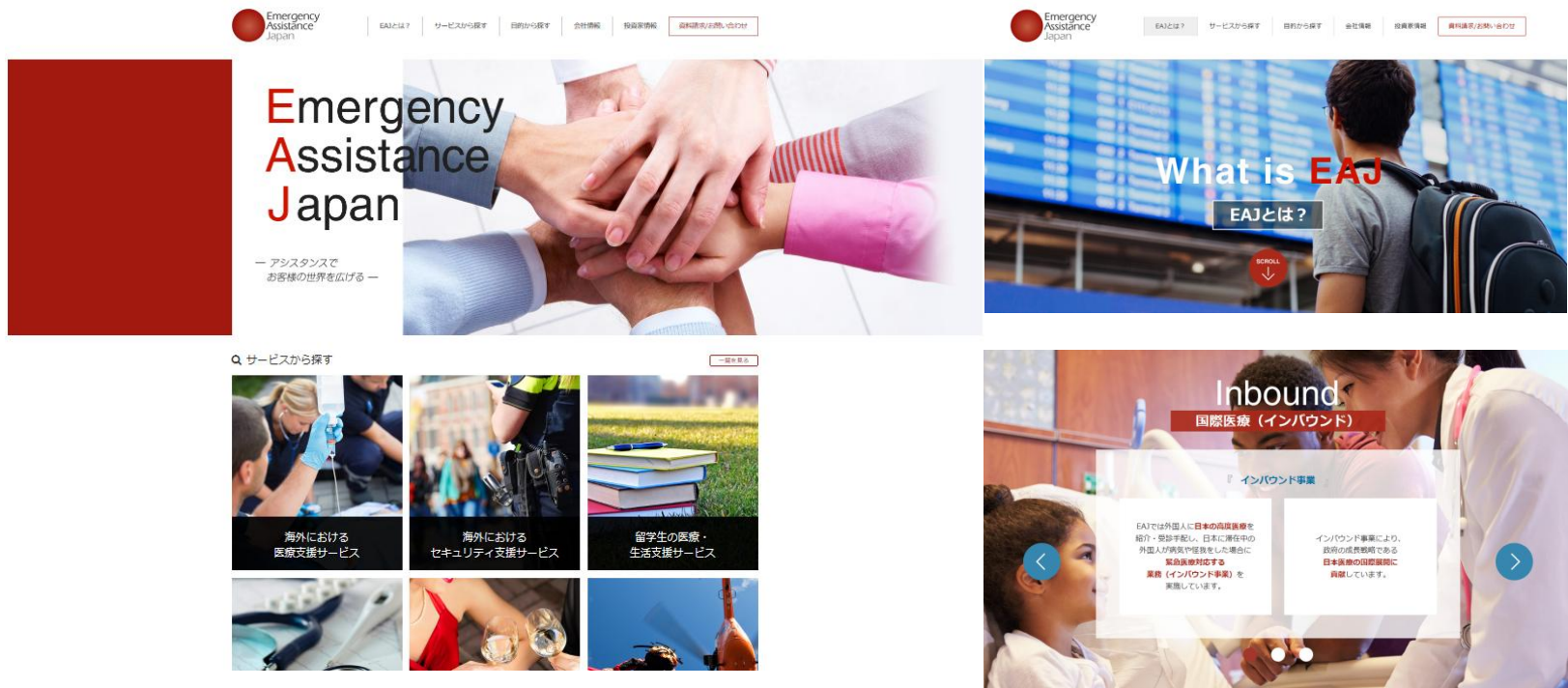
<sup>\*1</sup>: Okura Y, et al. Circ J. 2008; 72: 489-91.



# HPをリニューアル

- 4月21日にHPを全面リニューアル。
- サービス内容をより見やすく、より詳細に説明した。
- 救急救命アシスタンス(※)など新しいサービスを追加した。

※ 当社社内の救急救命士・看護師等の資格保有者を活用して企業やイベントの危機管理を実施するサービス



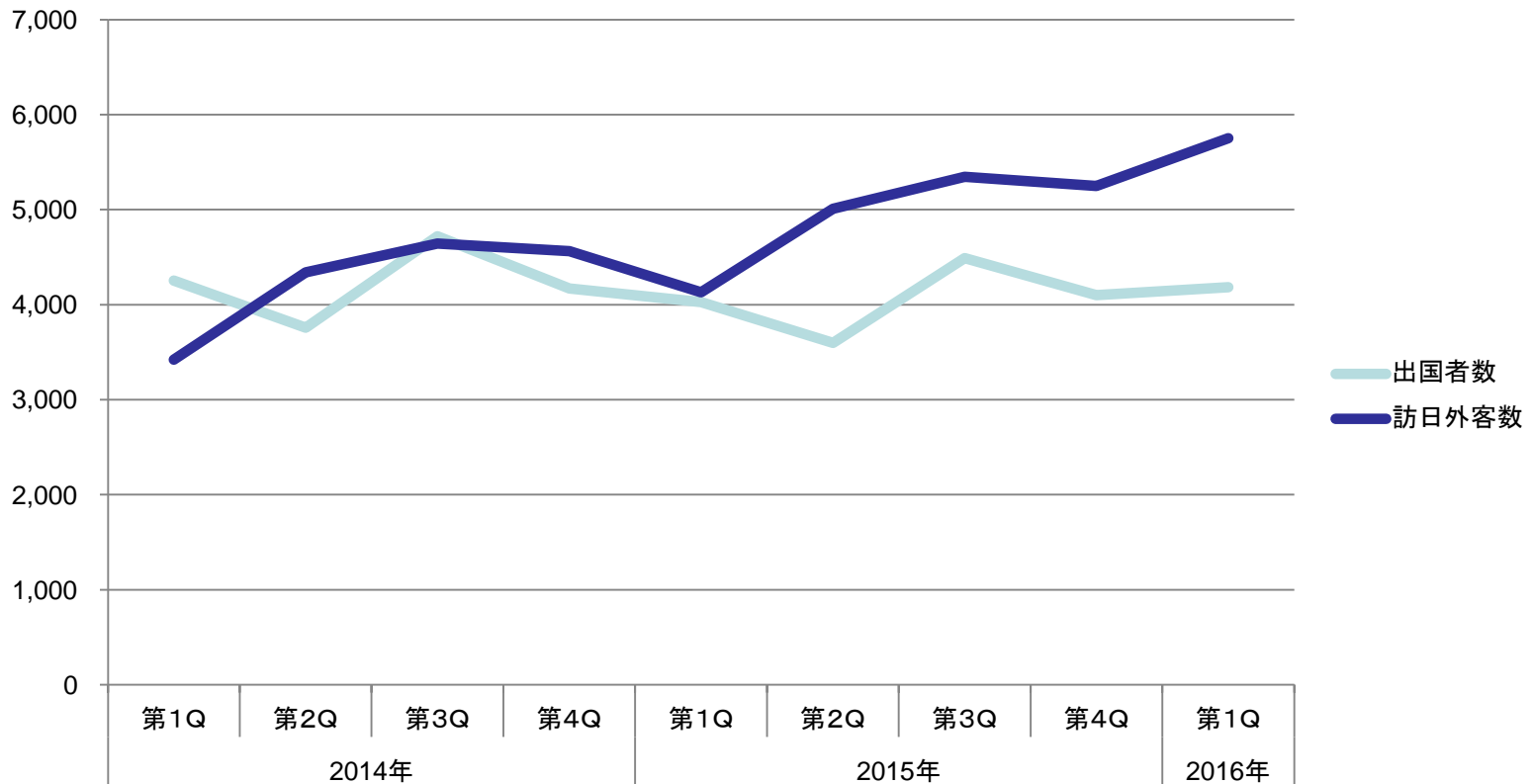
## IV. 2016年の業績環境

## 2016年の外部環境

- 海外出国者数の増加、訪日外客数の増加に伴い、医療アシスタンスに対するニーズが増加している。
- 円高の進展等の理由により、海外出国者数は若干回復の兆しが見えてきている。
- 為替レート(円高傾向)に関わらず、訪日外国人数は大幅に増加している。

### 出国者数及び訪日外客数の推移

単位:人

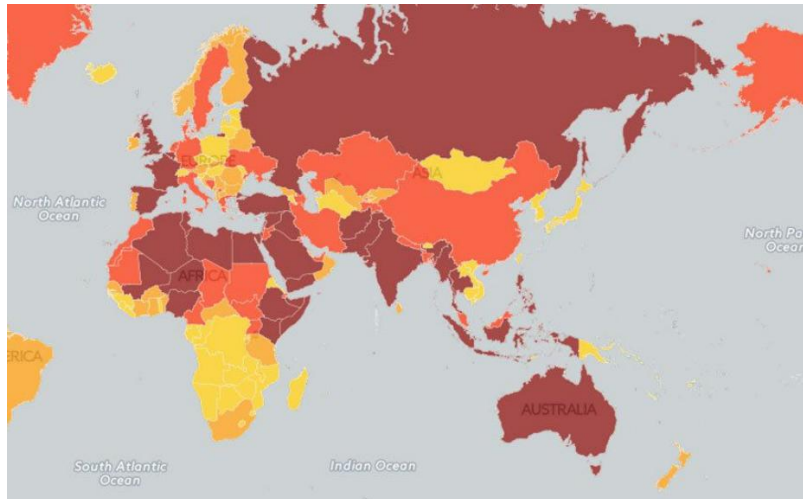


## 海外で多くのテロ事件が発生

世界のテロの発生件数は増加しており、セキュリティリスクマネジメントへのニーズが増加している。

- ・2015年11月にはフランスのパリで同時多発テロが発生。
- ・2016年、3月22日にはベルギーの首都・ブリュッセルの空港および駅で連続爆破テロ事件が発生し、死者35名、負傷者198名以上を出し、日本人も被害にあった。

英国外務省の情報によると、事件当時にフランス・ベルギーの危険度は高いと考えられていた。



出典「Terror threat around the world」Foreign and Commonwealth Office

### EAJのセキュリティアシスタンス例

- 24時間365日アクセスできるセキュリティ・ホット・ライン
- 全世界対象にセキュリティ上の注意喚起及び警告のメール配信
- セキュリティ・プロフェッショナルによる電話アドバイス

### フランス・パリ同時多発テロ事件における当社アシスタンス事例(大学危機管理サービスのケース)

#### ●緊急安否確認の実施

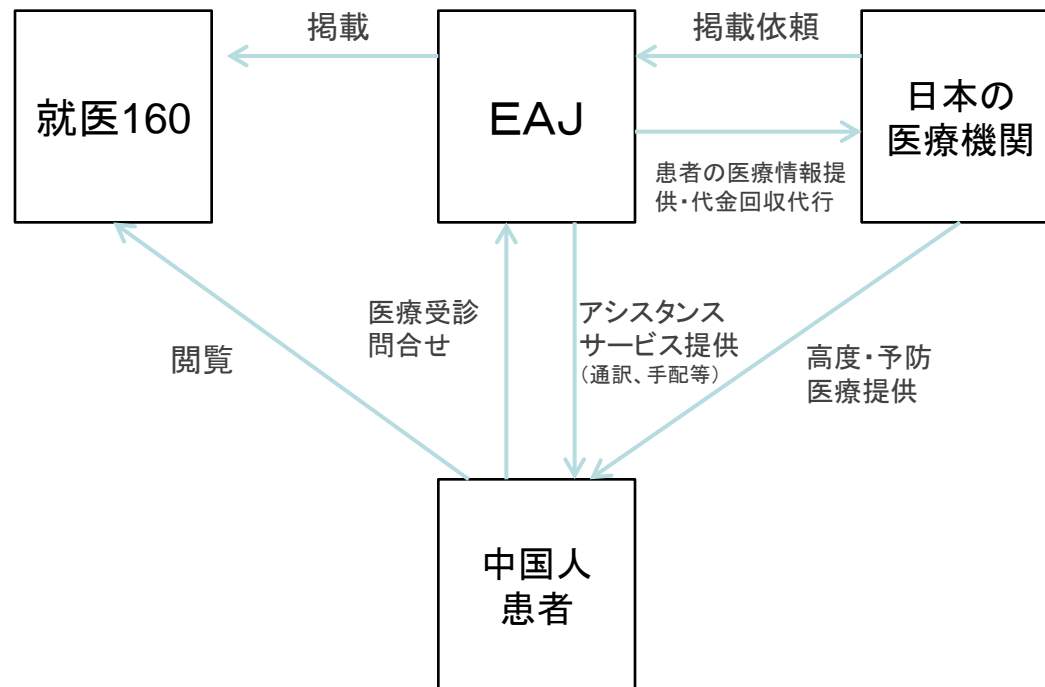
2015年11月にパリ市中心部の飲食店、コンサート会場、郊外のスタジアムで発生した同時多発テロ事件において、パリおよびフランス全土に滞在中の契約対象学生に向けて、緊急の安否確認を実施。これにより全員の無事をスムーズに確認することができた。また、学校ご担当者様には事件に関する現地の被害状況などについての危機管理情報も配信した。



## インバウンドについて

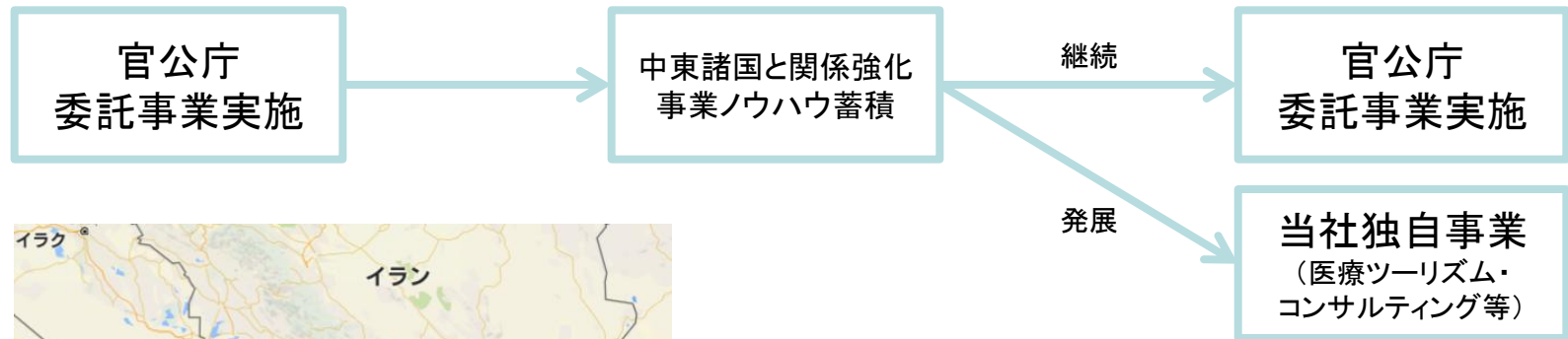
- 医療渡航支援企業に認証されたことにより、日本の高度医療の紹介案件は増加傾向にある。
- 海外からの訪日渡航者増加により、訪日外国人の滞在中の病気や怪我に対する緊急対応型アシスタンスの件数も増加傾向にある。
- 中国国内で最大級の医療ポータルサイトとして3,000万人以上のユーザを有する「就医160」と業務提携した。医療ツーリズムと当社サービスの広告宣伝を今後も積極的に世界で実施していく。

### 中国医療ポータルサイト「就医160」と業務提携



## 中東における活動について

- 経済産業省の補助事業としてUAEアブダビ首長国と日本の医療分野における協力強化事業を平成23年度から実施。
- カタール国との間では日本の医療分野における協力強化事業(再生医療製品である心筋シート事業の支援等)を実施。



- 官公庁委託事業を通じて得られた中東とのパイプを生かして当社事業に結びつくビジネスを展開していく(中東の患者に対する日本の高度医療の紹介・医療事業支援コンサルティング等)。
- 中東は生活が豊かになり、糖尿病等の生活習慣病が問題になっており、医療ニーズは先進国と変わらない。
- アラブ首長国連邦(UAE)やカタール、サウジアラビアなどが競うように高度医療技術を導入する医療都市を建設し、保健分野への支出も増加している。

## V. 2016年業績予想について

## 2016年の業績予想について

- 第1四半期累計利益の第2四半期予想利益に対する進捗率はいずれも100%を超えた。
- 一方、今後の業績の状況は現段階では以下の点で不透明であり、業績予想の修正は行わない。
  - ▶不安定な為替相場により海外出国者数の増加が不確実である
  - ▶インバウンドビジネスが当社業績に反映されるのにしばらく時間がかかる
  - ▶一部の不採算契約の更新を行なわなかった事による減収の影響が未確定である

(単位:百万円)

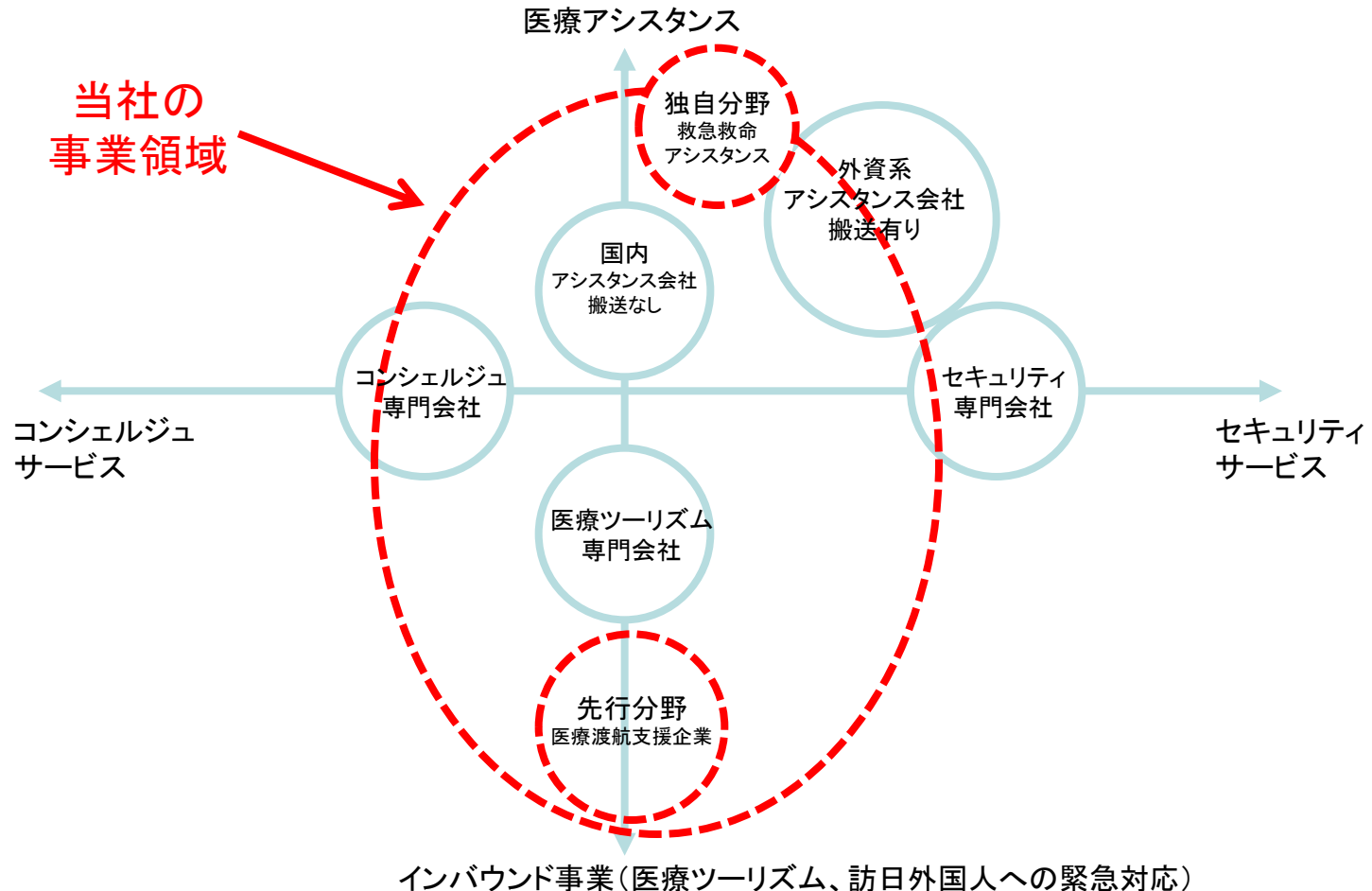
	第1Q累計実績	第2Q予想	第2Q進捗率 (1Q累計実績/ 第2Q予想)	通期予想	通期進捗率 (1Q累計実績/ 通期予想)
売上	742	1,382	53.7%	2,735	27.2%
営業利益	58	23	254.6%	90	64.9%
経常利益	45	19	237.2%	80	56.3%
四半期(当期) 純利益	28	15	189.0%	55	51.5%



## VI. 当社のビジネスモデルについて

## 当社の事業領域

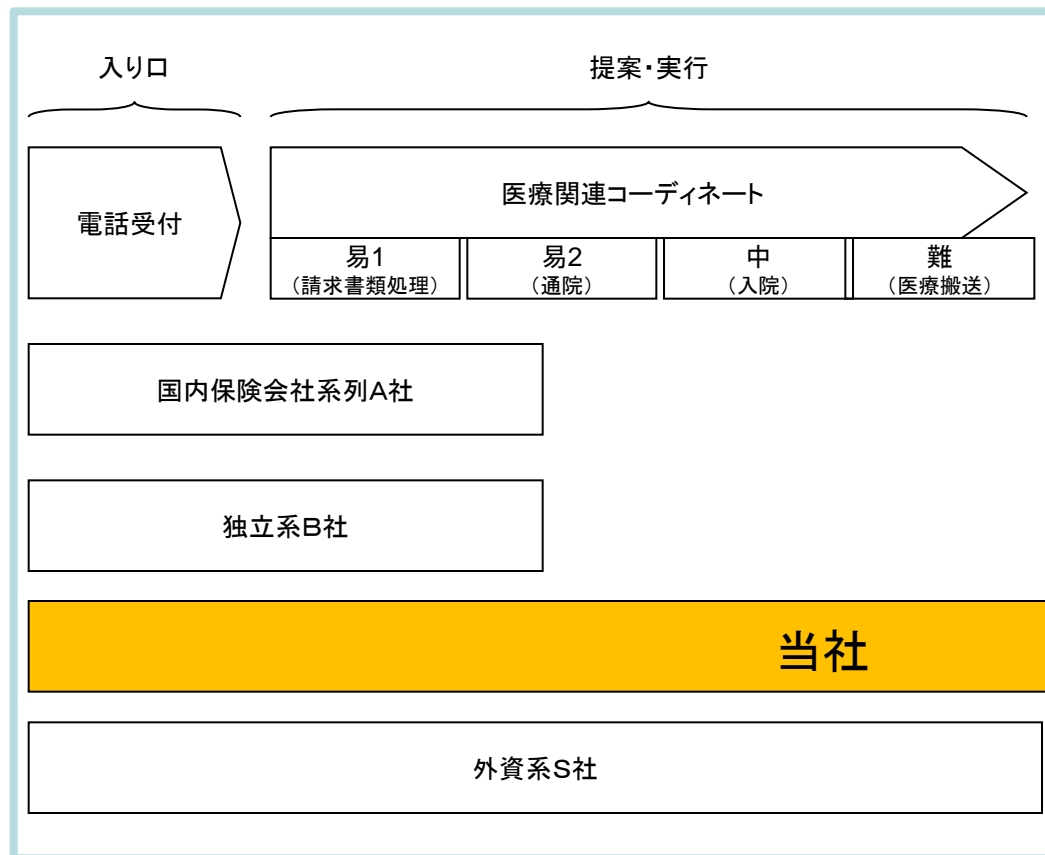
- 当社は医療アシスタンスとライフアシスタンス事業を行い、医療アシスタンスでは難易度の高い医療搬送やセキュリティアシスタンスサービス、又、インバウンド事業(高度医療紹介・緊急対応型サービス)にも注力しており事業領域が幅広い。
- 救急救命アシスタンスなど他社に類を見ない独自のビジネスモデルを構築・発展させている。



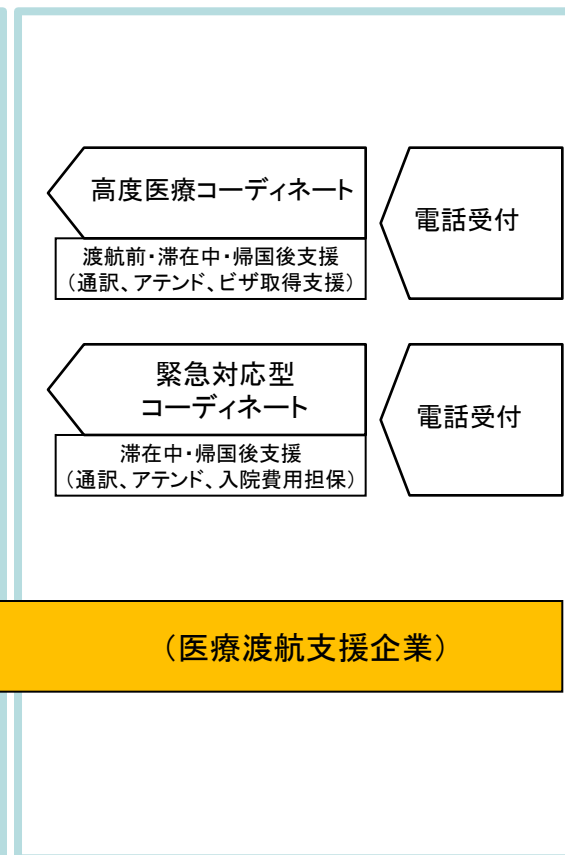
## 当社の医療アシスタンス事業領域

- 当社の医療アシスタンスはアウトバウンドでは医療搬送などの難易度の高い医療アシスタンスサービスを提供する点、インバウンドサービスにも力を入れている点で他社と大きく異なる。

### アウトバウンド (日本人に外国の医療機関を手配)



### インバウンド (外国人に日本の医療機関を手配)



# 当社の業界内ポジショニング

- 世界の大手アシスタンス会社はロードアシスタンスなどの事業の多角化により売上高1,000億円以上規模である。
- 当社はまず医療アシスタンスとその周辺事業を強化して業界内で競争優位を獲得し、顧客満足を最大化する。

## 医療アシスタンス事業を展開する事業者

- 医療アシスタンスサービスをフルラインナップ・ワンストップでサービス提供
  - 日本エマージェンシーアシスタンス
  - 外資系S社
  - 世界のグローバルプレーヤー4社  
※S社と4社が大手アシスタンス会社
- 医療アシスタンスの1次受けをメインに実施しているアシスタンス会社
  - 国内保険会社系列A社
  - 独立系B社

フルラインナップ  
コーディネート業務  
医療アシスタンス事業の展開  
1次受け中心  
コールセンター

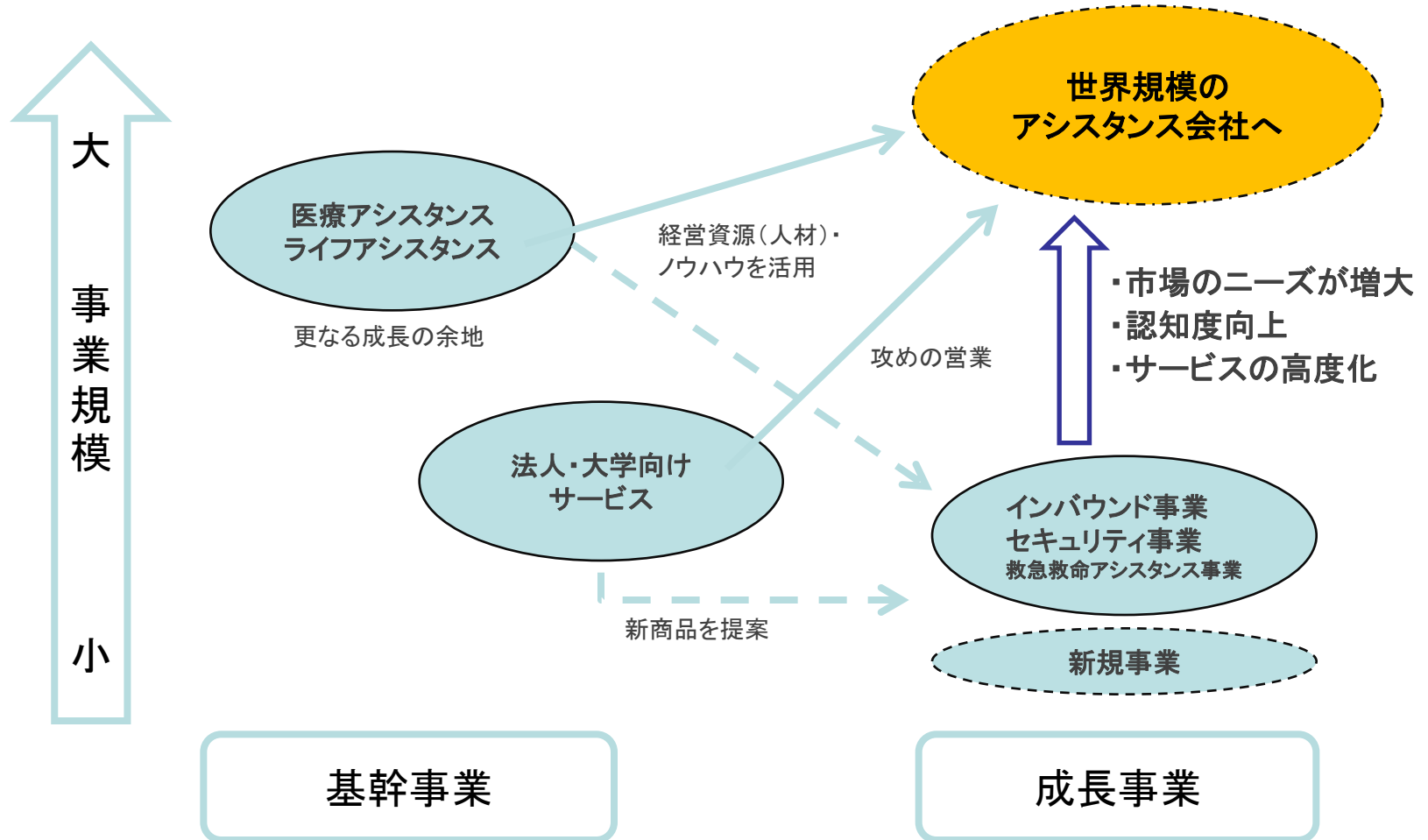
医療アシスタンス事業における  
業務範囲 & 資本関係による区分

 外資系S社	世界のグローバル プレーヤー4社
独立系B社	国内保険会社系列A社

独立系                      保険会社系  
資本関係

# EAJの事業展開イメージ

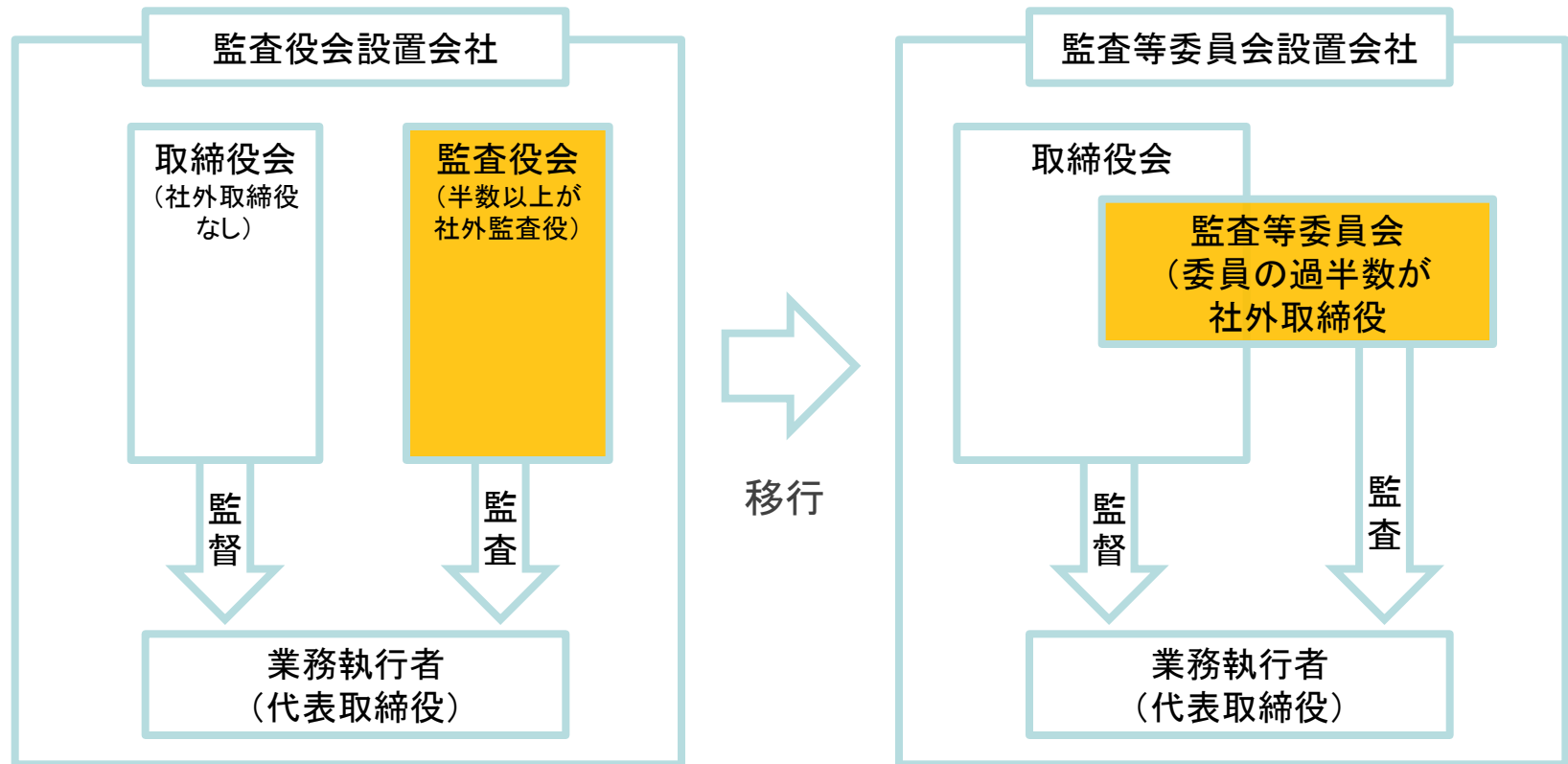
基幹事業である医療アシスタンス事業及びライフアシスタンス事業のノウハウを活用して成長事業（インバウンド・セキュリティ・救急救命アシスタンス事業等）を伸ばす



## VII. ガバナンス強化について

## 監査等委員会設置会社に移行

- ・当社は3月25日の株主総会で監査等委員会設置会社になることを決議した。
- ・社外取締役が2名となり、ガバナンスが強化された。



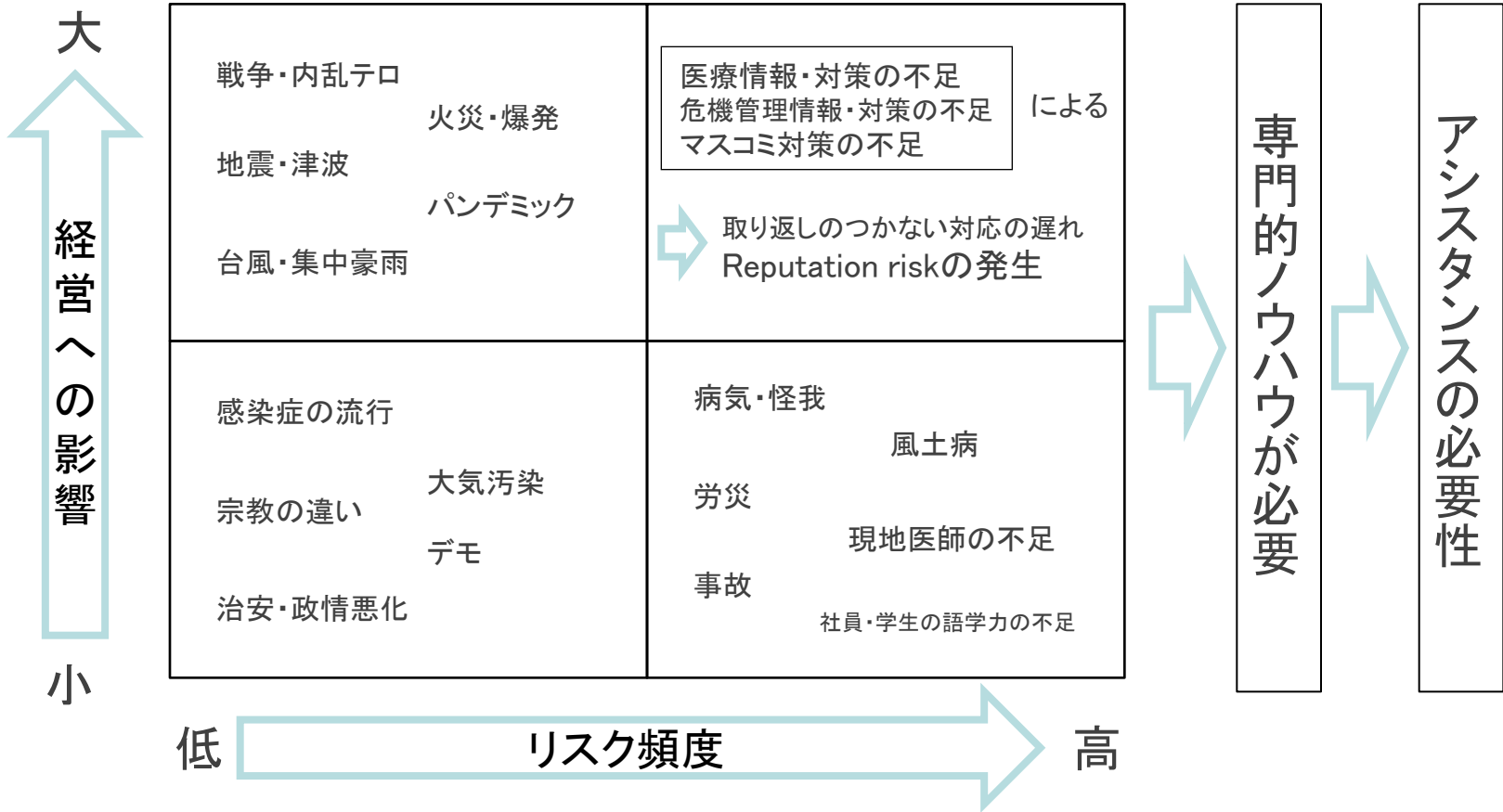
## VIII. アシスタンス会社のサービス



# 海外における突発的リスク発生に備えるには

- 海外に進出した企業、学校法人の留学生は様々なリスクを抱えるが、突発的なリスク、外部環境に起因したリスクをコントロールすることは単独では困難である。

企業・学校法人がコントロールできないリスク例



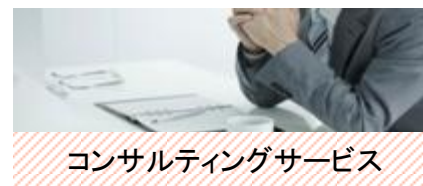
## 海外進出企業・学校法人が抱えるニーズ

- 海外進出企業・学校法人は、海外で起こる様々なリスクに対応しなければならない。
- 海外リスクのマネジメントをプロフェッショナル企業に外注することは選択肢の1つである。

### 法人・学校法人のお客さまが抱える具体的なニーズ

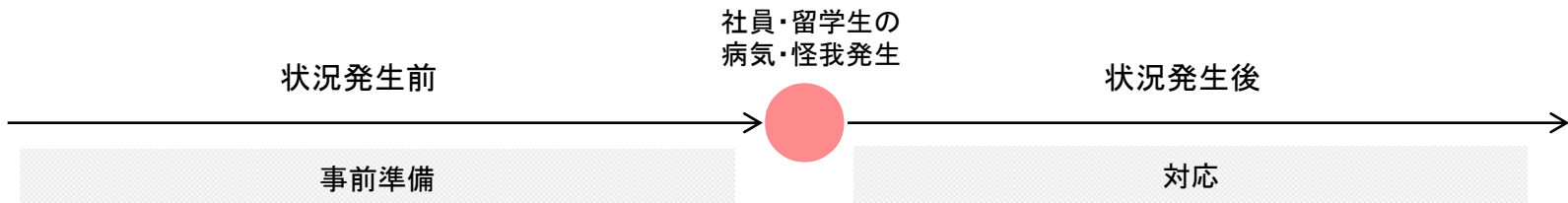
- ◆“各国現地支社・留学生の要望で、現地病院受診の仕組みを構築しなければならない。世界各国の駐在員・留学生に均一のサポート体制が必要”
- ◆政情不安な地域で、何かあった場合に具体的な対応ができる手段を探している。危機対応プランを策定、事前に本社・本校/現地にて共有して、事態に備えたい。
- ◆独自に駐在員・留学生向けサービスを検討している。各国の状況に即したサポート体制を提供できる仕組みを、社内・校内に導入したい。
- ◆例えばオリンピックで協賛会社として開催前から多くのスタッフを現地に送り、開催期間中にゲストを招待する。危機管理や医療の手厚いサポートを提供できる方法は無いのか。
- ◆人事・労務・安全管理担当として、政情不安やインフラ不足の地域で、何かあった場合どうするべきか、現地の医療情報収集と重症対応時の計画を事前にシミュレーションしておきたい。

### 当社が提供するサービス



## 企業・学校法人向けサービス

EAJは会員に対する業務遂行において適確かつ迅速なアシスタンス手配が遂行出来るよう、現地サービス体制、セキュリティ体制等、移送・搬送ルート等を可視化するシステムを利用して万全の体制を構築します。



### 事前コンサルティングサービス

- ◆ 世界各国の医療事情報告
- ◆ 世界各国の医療機関情報の提供
- ◆ 世界各地からの緊急搬送ルート・シミュレーション
- ◆ 特定地域のアシスタンス調査・配置



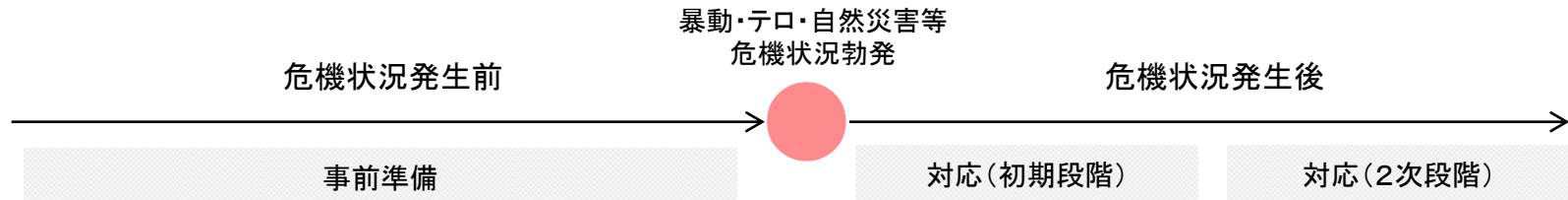
### 海外24時間医療アシスタンスサービス

- ◆ 海外における現地病院の手配
- ◆ 医療通訳アレンジ
- ◆ 入院費・治療費の支払保証・支払
- ◆ 日本人専門医による治療状況のモニタリング・セカンドオピニオン提供
- ◆ 医療者の派遣
- ◆ 緊急医療搬送(近隣医療先進国・日本への搬送)



# セキュリティサービス

暴動・テロなどへの対策には、専門的かつ煩雑な準備が必要となります。EAJは危機状況発生前のコンサルティングを中心に、実際の対応に至るまでのセキュリティサービスを提供いたします。



- ◆ 現地情勢の状況の情報収集
- ◆ 現地との現地状況の確認連絡
- ◆ 日常的な警戒態勢
- ◆ セキュリティ関連教育実施
- ◆ 危機管理組織を構築
- ◆ 大使館発表等情報収集
- ◆ 安否確認の仕組み策定
- ◆ 現地セキュリティ状況評価

- ◆ 危機対応計画を策定
  - 退避ルート
  - 緊急待ち合わせ場所
  - 決定権者の設定等
  - 緊急連絡ルートの設定

- ◆ 現地状況モニタリング
- ◆ 人員安否確認
- ◆ 商用便での早期退避
  - 退避者の確認
  - 帯同家族/非保安要員
- ◆ 退避実施の決定
- ◆ 保安要員の安全確保

- ◆ 避難地、帰国等国外退避実行
- ◆ 空港等集合場所への移動
- ◆ チャーター機による退避手配



# アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社